

# 復習の指針(東大文科 2007)

## <総評>

第一問は丁寧に絶対値を外して、それを図示して積分していく問題。完解しておきたい。  
 第二問は(2)までは完解したい。(3)は面積が一定の比率で変化することを考える。  
 第三問はいくつか具体的な例を出してそこから下一桁のみが関係することに気付き、一般化して示したい。  
 第四問は $m=n$ と $m<n$ において場合分けが必要になることに気が付くのがポイントになる。気が付かなくても(2)までの $m<n$ の場合の答えは求めておきたい。

## <取っておきたい加点要素のリスト> (取りこぼした点数を記入してあります)

大 問	加 点 要 素	配 点	取 り こ ぼ し		
			X	A	B
1	(1) 場合分けをする方針	4			
	図示	8			
	(2) 求める面積の立式	3			
	求める面積の計算	5			
2	(1) 完解	6			
	(2) 4つの円の半径を出す	4			
	計算して答を求める	3			
3	下1桁にのみ依存することを示す	6			
	下1桁の10通りをすべて実際に計算する	8			
	正しく答を導く	6			
4	(1) $m<n$ の場合の方針とその確率	4			
	(2) $m<n$ の場合の方針	2			
	$m<n$ の場合の確率	3			

### 加点要素のランク分けについて:

X: 本番でできなければビハインドとなってしまう(落としたら要反省!)

A: 標準的なもの

B: 処理力や発想力が多少必要だが本番ではある程度拾っておきたい

Xの取りこぼし合計は     / 18点     → Xを取りできれば     点

Aの取りこぼし合計は     / 19点     → X・Aを取りできれば     点

Bの取りこぼし合計は     / 25点     → X・A・Bを取りできれば     点

以上を参考に、自分の得意・苦手や他教科との兼ね合いも考えて、本番で取りたい点数を取れるよう復習してください。